

県世界遺産協議会

熊野古道、歩いて学ぼう

児童の現地学習を支援

県世界遺産協議会は本年度、県内小学校の世界遺産学習を支援している。協議会が現地学習時のプログラムや費用の一部を受け持ち、世界遺産への理解を深めてもらう。本年度は九度山(九度山町)、白浜第一(白浜町)、下里(那智勝浦町)の3校が高野山や田辺市内の熊野古道に向いて学習している。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を後世に継承するため、子どもたちに世界遺産の魅力に触れてもらい、ふるさとの素晴らしさを実感してもらおうと始めた。

移動手段など現地学習に必要な費用の一部を協議会が負担するほか、学習プログラムの構成を支援する。本年度は高野、熊野、大辺路の3地域から参加校を募集したところ、3校の応募があ

熊野古道沿いの三軒茶屋跡で県世界遺産センター職員の説明を聞く児童
(2日、田辺市本宮町で)

った。

2日には、白浜第一小の5、6年生37人が田辺市本宮町の県世界遺産センターを訪れた。児童は、誰がいつ何のために歩き、どのような史跡があるかなど、参詣道の歴史や概要を、イラストや展示物を用いたクイズ形式で学んだ。

その後、三軒茶屋跡から熊野本宮大社までの古道約2キロを歩いた。途中、古道に落ちたスギの枯れ枝を拾って古道脇に寄せる清掃も体験し、保全活動にも理解を深めた。初めて熊野古道を歩く児童も多く、新鮮な体験に児童は生き生きとした表情で取り組んだ。

5日には下里小児童38人も本宮町で学習する。九度山小は10月に高野山で実施した。県世界遺産協議会は来年度も世界遺産学習の支援活動を行う意向。